

児童養護施設等における児童間性暴力の背景にあるもの（その1）

— 量的調査の結果から —

○ 関西福祉大学 原 弘輝 (9590)

遠藤 洋二 (関西福祉科学大学・7244)

キーワード：児童福祉施設・児童間性暴力・量的調査

1. 研究目的

児童養護施設をはじめとした入所型児童福祉施設において、入所児童同士における性暴力（児童間性暴力）の問題は最も深刻な問題の1つとされている（榎原・藤原：2010）。児童養護施設における性暴力は、過去に性虐待を受けた子どもの性的トラウマの再現性として行われるケースや施設型性虐待とも呼ばれる、性を介在とした力の支配など、様々な分類が確認されてきている（杉山ら：2008）。しかしながら、これらの問題に対し、「施設および児童相談所は有効な対策を講じることができないまま、加害児童を別の施設へ移す（措置変更）」という対症療法に頼らざるを得ない」（遠藤：2016）現状があり、性暴力の実態やその背景にある要因に関して客観的に明らかにした研究はなされてこなかった。

共同発表者である遠藤が代表を務める「神戸児童間性暴力研究会」では、これまで性暴力のない施設を目指し、発表者も調査・研究・実践活動を進めており、2018年10月からは、第49回三菱財団社会福祉研究助成（採択番号30308）を受け、児童間性暴力の実態把握を目的とした全国調査を行い、その様相を一定程度明らかにしてきた。

本発表では、その中で明らかになった児童間性暴力の全体像と、調査結果を新たな視点で分析した「児童間性暴力の連鎖の問題」を取り上げ、過去に被害体験を有する児童が加害児となった背景に垣間見える特徴や要因について発表を行う。

2. 研究の視点および方法

本調査では、過去に施設内で児童間性暴力が発生した、児童養護施設、児童自立支援施設、障害児支援施設を対象とし、2018年10月13日から2019年5月19日にかけて「スノーボール方式」で全国21ヶ所の児童福祉施設に行った量的調査から得られたデータを基にIBM SPSS Ver.28を用いて分析を行う。調査方法は取り扱う課題がデリケートなものであることを考慮し、形式的面接法の形で実施した。

3. 倫理的配慮

本研究は施設における児童同士の性暴力という極めてデリケートな問題を扱うため、倫理的配慮に関しては特段の措置を講じた。本研究は、「日本社会福祉学会研究倫理規程」にのっとると同時に、共同発表者が所属する関西福祉科学大学研究倫理審査会の承認（承認番号：17-23）を得た上に調査を実施した。

4. 研究結果

全国21施設の児童福祉施設（児童養護施設：16施設、児童自立支援施設：3施設、障害児支援施設：2施設）へのアンケート調査の結果、過去10年間に施設で発生した児童間性暴力として、308ケース、197事案の回答を得た。

全国調査の結果から、児童福祉施設における児童間性暴力は同性間におけるケースが全体の7割を占めており、その加害行為が行われる場所としては、ホーム内が8割にもわたることなどが明らかになった。また、中学生年代による加害行為が全体の4割程度を占めていること、一時保護となった加害児童が措置変更となった際は児童自立支援施設がその担い手として任されている実情なども今回の調査で判明した。

加えて「児童間性暴力の連鎖の問題」については、全体のケースのうち77ケース（25%）の加害児が過去に被害体験を有していることも今回の調査で分かった。そこで、上記結果に対し、過去の被害体験の有無とのクロス集計による分析を行い、被害体験を有している児童の加害行為やその背景に関する分析を進めた。

分析の結果、過去に被害体験を有しているケースはそうでないケースに対し、同性間ケースの割合がさらに高く（同性間ケース：88.3%）、ホーム内における事案発生割合も高い（ホーム内における事案発生：89.5%）という結果が現れ、それぞれ χ^2 二乗検定にて有意差が認められた（同性間ケース：1%水準、ホーム内における事案発生：5%水準）。

5. 考察

研究の限界として、調査のサンプリング方法によるデータの偏りなどが考えられるが、今回の調査から児童福祉施設における児童間性暴力の特徴を明らかにすることに加え、過去の被害体験を有する児童による加害行為、いわゆる「連鎖」の問題がこの特徴をさらに助長する結果に影響している可能性が垣間見えたと思われる。性暴研では、現在「児童福祉施設等入所型児童福祉施設児童間性暴力“0”へのロードマップ」の開発を進めているため今後、全国調査等の結果も踏まえ、予防のみならず再発防止に向けた取組を進め、実践現場への還元を進めていく。

【参考資料】

- 遠藤洋二（2016）「児童養護施設から児童自立支援施設へ措置変更された児童の背景にあるもの～措置変更児童に関する全国調査からの一考察～」『児童養護実践研究第5号』児童養護実践学会、pp12-26
- 榊原文、藤原映久（2010）「児童養護施設入所児童の性問題行動について - 児童養護施設職員へのフォーカス・グループインタビューを通じて」『子どもの虐待とネグレクト』12, pp386-397
- 杉山登志郎、海野千畝子、藤沢陽子、他（2008）「児童養護施設における性虐待対応マニュアル」『児童虐待等の子どもの被害及び子どもの問題行動の予防・介入・ケアに関する研究（主任研究者奥山真紀子）』H17-19年度包括報告書